

【基本方向2】社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進

<p>施策項目</p>	<p>4 ふるさと教育の充実 5 国際理解教育の充実 6 理科・数学教育の充実 7 情報教育の充実 8 キャリア教育の充実 9 産業教育の充実 10 環境教育の推進 11 高等教育の充実</p>	<p>第2期 教育振興 基本計画 基本施策 との対応</p>	<p>1 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実 2 豊かな心の育成 6 特別なニーズに対応した教育の推進 11 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進 13 キャリア教育の充実、職業教育の充実、社会への接続支援、産学官連携による中核的専門人材、高度職業人の育成の充実・強化 14 優れた才能や個性を伸ばす多様で高度な学習機会等の提供 16 外国語教育、双方向の留学生交流・国際交流、大学等の国際化など、グローバル人材育成に向けた取組の強化 21 地域社会の中核となる高等教育機関（COC構想）の推進 25 良質で質の高い学びを実現する教育環境の整備 27 大学等の個性・特色の明確化とそれに基づく機能の強化（機能別分化）の推進</p>
<p>まとめ</p>	<p>・道立高等学校及び道立中等教育学校（後期課程）の生徒が国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を高めることをねらいとし、ICTを活用して海外の高等学校等との交流を行うとともに、授業等で活用できる実践事例集の作成や、実践成果の普及を図るためのU-18未来フォーラムを拠点校8校を指定して実施 ・小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業に関連する市町村長、教育長、総合振興局長・振興局長、教育局長などが一堂に会した連携フォーラムを開催し、「地域の自然や産業等の教育資源を生かした取組の充実策」などをテーマにした14管内別ディスカッションなどを実施</p>		<p>評価</p> <p>概ね計画 とおり</p>

施策項目4 ふるさと教育の充実

—●— 目標値（斜体）  
■ 実績値 %…進捗率

指標の状況	①住んでいる地域の行事に参加していないと回答した児童・生徒（%）〔全国学力・学習状況調査〕		H29目標 0%	②アイヌの人たちの歴史・文化等に関して調べ学習をしている学校（%）		H29目標 100%	
	<p>〈小学校〉 実績値 18.8% (進捗率81.2%)</p>	<p>〈中学校〉 実績値 34.2% (進捗率 65.8%)</p>	<p>〈小学校〉 100%</p>	<p>〈中学校〉 100%</p>	③北方領土に関して調べ学習をしている学校（%）		H29目標 100%
	<p>〈小学校〉 100%</p>	<p>〈中学校〉 100%</p>	<p>参考指標 (a) アイヌ教育相談員による講座の開催数（回）</p> <p>〈小・中学校〉</p>				

施策の推進状況	<p>【Plan】平成28年度の主な施策</p> <p>■本道の自然や歴史、北方領土やアイヌの人たちの歴史などの学習の充実</p>	<p>【Do】主な実績</p> <p>・ふるさと教育・観光教育推進事業指定校における「指導プログラム」を活用した実践的な授業の実施や公開授業の教員研修の場としての活用（実践校30校、協力校45校） ・北海道ふるさと教育・観光教育実践事例交流会の開催（小・中学校教員101名参加）</p>
	<p>■アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教育の充実</p>	<p>・指導プログラムを活用した指導の普及 ・アイヌ教育相談員の事業指定校への訪問（参考指標(a)）</p>
	<p>【Check】施策の課題</p> <p>●ふるさと教育の更なる充実〔分析・背景〕</p> <p>・アイヌの人たちの歴史・文化等や北方領土に関する調べ学習は、ほぼ全ての学校で行われている。（目標指標②・③） ・地域の行事に参加している児童生徒の状況を踏まえ、ふるさとに対する児童生徒の興味・関心を高める指導方法を改善することが重要</p> <p>〔課題〕 ふるさと教育・観光教育等推進事業の成果の普及を図るなどして、ふるさと教育の更なる充実が必要</p>	<p>【Action】今後の方向</p> <p>・北方領土対策本部との連携による外部講師の招聘やアイヌ教育相談員を活用した授業の実施 ・本道の自然や文化、観光産業などの教育資源を活用した実践や体験施設先を活用した教育活動の充実 ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」や、指導資料「アイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の一層の充実に向けて」等を活用した事業成果の周知及び普及</p>

施策の推進状況	総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均
	概ね計画 とおり	概ね計画 とおり	4	0	1	1	0	3.2
		定性評価	(定性評価)					
		—						

施策項目5 国際理解教育の充実

— 目標値 (斜体) % 進捗率  
■ 実績値

指標の状況	<p>④異なる文化や生活習慣などへの意欲が高まったと回答した生徒</p> <p>H29目標 100%</p> <p>〈高校〉 50.6%</p>	<p>⑤外国語活動で中学校と連携している小学校 (%)</p> <p>H29目標 100%</p> <p>〈小学校〉 103.8%</p>	<p>⑥外国人等による講演会など国際理解教育を行っている公立高校 (%)</p> <p>H29目標 100%</p> <p>〈公立高校〉 102.6%</p>
	<p>参考指標 (b)イングリッシュキャンプ参加者数 (人)</p> <p>□ &lt;小学生&gt; ■ &lt;中学生&gt; ▨ &lt;高校生&gt;</p>		
	<p>【Plan】平成28年度の主な施策</p> <p>■外国語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALTの活用による実践的な指導 (ALT配置数62名)</li> <li>外国語活動や英語教育に関する教員研修</li> <li>研究指定校における実践研究 (3校)</li> <li>スーパーグローバルハイスクールにおける実践研究と研修成果の普及</li> <li>道独自の英語検定の開発検討 (検討会議2回、実施協力校14校)</li> <li>小学校外国語活動巡回指導教員研修事業 (7市)</li> </ul> <p>■国際理解・異文化理解のための体験交流機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オールイングリッシュによる生活を体験できる「イングリッシュキャンプ」の開催 (6会場：小96名、中90名、運営ボランティア40名 合計226名参加)</li> <li>高校生向けの「スーパーイングリッシュキャンプ」の開催 (1会場、高33名参加)</li> <li>通学型のイングリッシュキャンプであるイングリッシュミーティングの開催 (1会場：小17名、中12名 合計29名参加)</li> <li>高校生の留学促進のための海外留学フェアの開催 (6会場、1回)</li> <li>短期留学に対する支援金を給付</li> <li>アルバータ州との高校生の交換留学 (派遣8名、受入8名)</li> <li>道内と海外の高校生の意見交換を行う「U-18未来フォーラム」に係る「地区セミナー」の開催 (6会場、94名参加)</li> </ul> <p>■外国人児童生徒の教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推進に向けた懇談会の実施 (9市町村教育委員会)</li> <li>指導資料を基に市町村教育委員会や学校に指導・助言</li> <li>「帰国・外国人児童生徒受入れQ&amp;A」のWeb掲載</li> </ul>		
施策の推進状況	<p>【Check】施策の課題</p> <p>●小中学生の英語力の向上 〔分析・背景〕</p> <p>〈小学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の英語教育に対する意識や指導力に差がある</li> </ul> <p>〈中学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校段階で求められる英語力を有する英語担当教員及び生徒の割合や、英検等の受験率が全国に比べて低い</li> </ul> <p>〔課題〕</p> <p>〈小学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の指導力、英語力の向上を図る必要がある</li> </ul> <p>〈中学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身が英語力を高める必要性や自己研鑽への意識啓発を図る必要がある</li> <li>生徒自身が英語力を自ら把握することが重要</li> </ul>	<p>【Action】今後の方向</p> <p>〈小学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語力アップ夏季集中セミナーの実施などによる教員研修の充実</li> <li>時間割編成や学びの連続性に関する指導資料の作成、配付</li> <li>小学校外国語活動巡回指導教員研修事業の拡充や中学校教員による乗り入れ授業などによる指導力に優れた教員による指導体制の整備</li> </ul> <p>〈中学生の英語力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オレンカ教授や英語教育推進リーダーによる教員研修の充実</li> <li>英語教育推進リーダー研修修了後に民間の検定試験の設定による教員の資格取得の促進</li> <li>道独自の英語検定の試行実施の拡充</li> <li>「書く」「読む」問題の開発</li> </ul>	

		【Check】 施策の課題		【Action】 今後の方向			
施策の推進状況	●グローバル人材の育成 〔分析・背景〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のグローバル化に伴い、外国語によるコミュニケーション能力の向上とともに、国際社会の一員としての自覚を持ち、主体的に行動できる人材の育成が求められている</li> <li>・海外からの旅行者数が増加する中、実践的な語学力等の育成が学校教育に求められている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバルハイスクール中間成果報告会の実施による研究成果の普及</li> <li>・イングリッシュキャンプの改善・充実</li> <li>・道内の高校生と海外の高校生の意見交換を行う「U-18未来フォーラム」の開催</li> <li>・留学斡旋団体や、英語圏を中心とした各国大使館等の公的機関職員による説明や留学相談等を行う留学フェアの実施</li> <li>・学科の特性等に応じて英語の活用場面を想定した3タイプの学習プログラムの開発を通じ、英語学習の意欲や授業改善等を図る「高等学校英語力向上事業」を実施</li> </ul>			
	●外国人児童生徒の教育の充実 〔分析・背景〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導等が必要な児童生徒が増加傾向にある</li> <li>・特別な日本語指導等を必要とする児童生徒の特別の教育課程が編成されている割合が低い</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業による当該児童生徒等に対するきめ細かな指導支援体制の整備</li> <li>・教員等の研修の充実</li> <li>・日本語能力の把握、日本語能力に応じた「特別の教育課程」等について指導助言</li> </ul>			
	〔課題〕	日本語指導等が必要な児童生徒の受入体制の整備や特別の教育課程、日本語指導等の在り方、学校生活への適応など、日本語指導等が必要な児童生徒等に対する指導支援体制を整備する必要がある					
総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均
概ね計画どおり	概ね計画どおり	2	0	0	1	0	3.0
	定性評価	(定性評価)					
	—						

施策項目6 理科・数学教育の充実

—●—目標値 (斜体) %…進捗率  
■…実績値

指標の状況		⑦全国平均正答率を100とした場合の平均正答率 (%) [全国学力・学習状況調査]						H29目標 100%
		■<小学校 (算数A)> 97.0% ▨<小学校 (算数B)> 94.3%			■<中学校 (数学A)> 99.4% ▨<中学校 (数学B)> 98.2%			
施策の推進状況	【Plan】平成28年度の主な施策				【Do】主な実績			
	<p>■理科・算数数学の指導の充実</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>道立教育研究所における研修（算数科教育研修講座（小学校教員14名参加）、数学科教育研修講座（中学校、高校教員延べ17名参加）、理科教育研修講座（小・中学校、高校教員延べ274名参加））</li> <li>北海道学力向上Webシステムを活用したチャレンジテストの配信（算数・数学9回、理科3回）</li> <li>算数・数学担当指導主事によるチャレンジテストの内容の検討会議の実施</li> <li>学力向上推進研修会の開催（23会場、1,396名参加（23会場で11会場に本庁職員を派遣し、直接説明））</li> <li>理科教員を対象とした「授業実践講座」（4回、高校教員42名参加）</li> <li>小学校理科専科教員の配置（18校18名）</li> </ul>			
	<p>■理数科等における理科・数学教育の充実</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な理数教育の実践研究（「スーパーサイエンスハイスクール」指定校7校）の実施</li> <li>HOKKAIDOサイエンスティーチャーズミーティング等を通じたスーパーサイエンスハイスクールの成果の普及</li> </ul>			
	<p>■理科教育の支援の充実</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>サイエンスカーの更新及びサイエンスカーによる移動理科教室の開催（6回、18校 672名参加）</li> <li>「科学の甲子園」北海道大会の開催（高16校、33チーム198名参加）</li> <li>「科学の甲子園ジュニア」北海道大会の開催（中29校、99チーム296名参加）</li> </ul>			
	【Check】施策の課題				【Action】今後の方向			
<p>●小中学校における理科、算数・数学の研修の充実 〔分析・背景〕</p> <p>算数・数学においては全国学力・学習状況調査で依然として全国平均を下回るなどの課題がある（目標指標⑦）</p> <p>〔課題〕</p> <p>全国学力・学習状況調査結果を活用した組織的な授業改善を促進するため教員研修の取組強化が必要</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校で中心となって学力向上に取り組んでいる教員、管理職を対象に全国学力・学習状況調査の分析・活用及び授業改善を学校全体で行うための研修を行う「組織力強化会議」の実施</li> <li>各市町村で中心となって学力向上に取り組んでいる教員（中堅教員）を対象とした授業改善に関する研修を行う「モデルリーダー指導力向上研修会」の実施</li> <li>平成29年度全国学力・学習状況調査の算数・数学の調査結果の分析を踏まえたチャレンジテストの実施</li> </ul>				
<p>●スーパーサイエンスハイスクールの実践研究の成果の普及 〔分析・背景〕</p> <p>スーパーサイエンスハイスクールの指定校においては一定の成果が生まれている一方、他校への周知が不十分</p> <p>〔課題〕</p> <p>スーパーサイエンスハイスクールの成果の普及が必要</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>HOKKAIDOサイエンスティーチャーズミーティング、学校教育指導、教育課程研究協議会等を通じたスーパーサイエンスハイスクールの成果の普及</li> <li>理科・数学教育の中核としてスーパーサイエンスハイスクールを位置づけ、小中高の教員研修を推進</li> </ul>				
総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均	
やや遅れ	概ね計画どおり	0	4	0	0	3	3.0	
	定性評価	(定性評価)						
	やや遅れ	全国学力・学習状況調査においては、これまでの取組により改善の傾向が見られるものの、依然として算数・数学の平均正答率が全国平均を下回る状況であることから「やや遅れ」とする。						

施策項目7 情報教育の充実

—●—目標値 (斜体)      %…進捗率  
■…実績値

指標の状況	<b>⑩授業にICTを活用して指導できると回答した教員 (%)</b> <b>H29目標 100%</b>		<b>⑪コンピューター一台当たりの児童生徒数 (人)</b> <b>H29目標 4.3人</b>		
	<全校種> 84.4% 		<小・中学校> 84.5% 		
	<b>⑫提示用デジタル機器を整備している普通教室 (小・中学校) (%)</b> <b>H29目標 100%</b>		<b>⑬情報モラルを指導できると回答した教員 (%)</b> <b>H29目標 100%</b>		
	<実物投影機> 59.7% 		<表示用機器 (電子黒板等)> 95.2% 		
	参考指標 (c) 普通教室の校内LAN整備率 (%)				
	<小学校> 		<中学校> 		<高校> 
	<特別支援学校> 				
	参考指標 (d) 教育用タブレット1台当たりの児童生徒数 (人)				
	<小学校> 		<中学校> 		<高校> 
	<特別支援学校> 				
施策の推進状況	<b>【Plan】平成28年度の主な施策</b>		<b>【Do】主な実績</b>		
	■情報活用能力の育成		・児童生徒の発達段階に応じた情報活用の実践力の育成に向けた指導主事等による指導・助言や情報提供		
	■教員の資質・能力の向上		・本道の教育の情報化の方向性を示すため、教育の情報化推進指針を策定中 ・情報指導者養成やICT機器を活用した授業づくりなどに関する研修の実施 (7講座、106名参加) ・タブレット端末の効果的な活用、遠隔授業の実施などICT技術を活用した授業改善や教育手法の検証 (実践指定校: 26校) ・教員を対象とした公開研究会の開催 ・高等学校におけるICT技術を活用した実践事例集の作成・配布 ・小、中学校におけるICT技術を活用した実践事例の収集		
	■情報教育設備の整備		・ICTの活用による効果や地方財政措置に係る資料を作成し、市町村教育委員会及び市町村に対して情報教育設備の整備促進に向けた働きかけ		
<b>【Check】施策の課題</b>		<b>【Action】今後の方向</b>			
●児童生徒の情報活用能力と教員のICT活用指導力の育成 【分析・背景】 情報化の進展に伴い、児童生徒が情報機器を利用する機会が一層増えることが予想されるが、授業にICTを活用して指導できる教員の割合が十分ではない (目標指標⑩) 【課題】 教員がICTの特性を理解し、効果的な活用方法を身につける必要があることから教員の指導力の向上を図る研修を充実させることが重要		・策定中の教育の情報化推進指針を策定し、広く全道に周知 ・ICT技術を活用した授業改善の成果の普及 ・ICT活用の指導事例集の配布や教育課程研究協議会での事例紹介			

施策の推進状況	【Check】 施策の課題				【Action】 今後の方向			
	●情報教育設備の充実 〔分析・背景〕 導入の管内格差が大きく、教育の情報化の効果について理解を促す必要がある 〔課題〕 市町村教育委員会及び市町村への一層の導入の働きかけが必要				・教育の情報化推進指針を策定し、広く全道に周知 ・ICTの活用による効果や導入事例、地方財政措置などについての市町村教育委員会及び市町村への情報提供			
	総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均
	やや遅れ	やや遅れ	0	1	3	1	0	2.0
やや遅れ	定性評価	(定性評価)						
	—							

施策項目8 キャリア教育の充実

—●—目標値（斜体）  
■実績値 %…進捗率

指標の状況	⑭ 将来の夢や目標をもっていると回答した児童・生徒（％） 〔全国学力・学習状況調査〕		H29目標 100%	⑯ 在学中に1回以上インターシ ップを経験した生徒（％）		H29目標 50%
		<p>＜小学校＞ 86.5%</p>	<p>＜中学校＞ 73.6%</p>		<p>＜高校＞ 129.7%</p>	
	<p>⑰ 就職を希望しているが進路が決ま っていない生徒（％）</p> <p>＜高校＞ 実績値31.7% (進捗率 104.4%)</p>	<p>参考指標 (e) インターンシップ実施生徒数の割 合（％）</p> <p>＜高校＞</p>		<p>参考指標 (f) 高校就職希望者の就職決定率 （％）</p> <p>＜高校＞</p>		
施策の推進状況	【Plan】平成28年度の主な施策			【Do】主な実績		
	<p>■一人一人のキャリア発達への支援の充実</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>道内各地での優れた取組を紹介した実践事例集の活用促進</li> <li>キャリア教育に関するリーフレットや指導事例集の活用促進</li> <li>生徒数の数値目標を設定したインターンシップの推進（参考指標(e)）</li> <li>望ましい職業観や勤労感を育成する実践研究（「専門高校 Progressiveプロジェクト推進事業」研究指定校：8校）の推進</li> <li>高校生の社会的・職業的自立に向け必要な基礎的・汎用的能力を育むための実践研究（「キャリア教育・職業教育推進事業」研究指定校：4校）の推進</li> <li>地域に根ざした小中高の一貫したキャリア教育に関わる実践研究（「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」研究指定校：小20校、中16校、高14校）の推進</li> <li>学校と地域企業との相互理解促進のための企業見学や意見交換を実施（「高等学校就職促進マッチング事業」全14教育局で32回実施）</li> </ul>		
	<p>■進路指導の充実</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談員の配置（全14教育局）</li> <li>ジョブカフェ北海道との連携による教員向けセミナー（2回、高校教員20名参加）</li> <li>北海道労働局や北海道経済産業局、経済部と連携した経済団体に対する雇用要請（1回）</li> <li>道教委独自の経済団体に対する雇用要請（1回）</li> <li>高校生や保護者を対象にした企業見学会の開催（高校生735名、保護者17名参加）</li> <li>進路指導担当教員の職場訪問による学校への理解促進と企業ニーズの把握</li> <li>職場見学会への参加を呼びかける保護者向け啓発資料の配布など、進路指導における学校と保護者の連携強化</li> <li>高校の進路指導担当者会議等に中学校教員が参加することによる進路指導の充実</li> </ul>		
	【Check】施策の課題			【Action】今後の方向		
<p>●一人一人のキャリア発達への支援の充実 〔分析・背景〕</p> <p>キャリア教育が学校種別の単発的な取組が多く、 発達段階を踏まえたキャリア教育が十分でない</p> <p>〔課題〕</p> <p>各学校段階において発達段階に応じた体系的な キャリア教育の推進が必要</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程研究協議会などで小・中・高を通じた組織的・系統的なキャリア教育について指導</li> <li>H25に設定したインターンシップ実施についての数値目標の達成に向けた取組の充実</li> <li>学校と市町村や保護者、地域の関係団体がキャリア教育について協議する場の設定</li> <li>地域に根ざした小・中・高校の一貫したキャリア教育の実践成果に係る啓発資料やホームページ等による情報発信</li> </ul>			
<p>●高校生の進路指導の充実 〔分析・背景〕</p> <p>新規高卒就職者が早期に離職する割合が、北海道 は全国平均よりも高い</p> <p>〔課題〕</p> <p>社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行 に必要な力を身に付けさせる教育活動の充実が必要</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>職場見学会への参加を呼びかける保護者向け啓発資料の配布など進路指導における学校と保護者の連携強化</li> <li>北海道労働局や北海道経済産業局、経済部と連携した経済団体に対する雇用要請</li> <li>「就職指導の改善に関する研究指定校事業」において早期離職問題などの課題を分析</li> <li>生徒を対象とした社会的・職業的自立に向け、必要な基礎的・汎用的能力を育成するための「ビジネスマナーアップセミナー」の充実</li> </ul>			



施策の推進状況	総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均
	概ね計画 どおり	概ね計画 どおり	2	0	1	1	0	2.8
		定性評価	(定性評価)					
		—						

施策項目9 産業教育の充実

—●—目標値（斜体）  
■実績値 %…進捗率

指標の状況	①専門的な外部人材の講話を実施している専門学校 (%)	H29目標 60%	②産業教育のため、地域や産業界等と連携する専門学校 (%)	H29目標 80%	③「食」や「観光」に関する取組が行われている専門学校 (%)	H29目標 100%	
	<p>＜専門学校＞139.8%</p> <p>80.0 60.0 40.0</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29</p> <p>参考指標 (g) 地域企業との連携や商品開発や研究を行っている職業高校 (%)</p> <p>＜職業高校＞</p> <p>80 60 40</p> <p>H26 H27 H28</p>			<p>＜専門学校＞ 115.5%</p> <p>100 80 60</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29</p>		<p>＜専門学校＞92.0%</p> <p>100 80 60</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29</p>	
施策の推進状況	【Plan】平成28年度の主な施策			【Do】主な実績			
	<p>■ 社会の変化や産業の動向等に対応した人材育成の推進</p> <p>■ 地域や産業界と連携した産業教育の充実</p>			<p>・ 大学、試験研究機関、地域産業界と連携した専門的知識・技能の習得や次代の地域産業を担う専門的職業人の育成に係る実践研究（「専門学校Progressiveプロジェクト推進事業」研究指定校：8校）の推進</p> <p>・ 知事部局や関係機関との連携による職業教育セミナー（専門力アップセミナー8校71人参加、新・農業人フェア3校82人参加）の実施</p>			
	<p>■ 本道産業への理解の促進</p>			<p>・ 地域の観光資源や産業に対する理解を促進するため、地理歴史科や公民科、総合的な学習の時間等における外部人材の活用</p> <p>・ 地域の産業特性やニーズに対応する取組に関する実践研究（「専門学校Progressiveプロジェクト推進事業」研究指定校：8校）</p> <p>・ 専門学校生の学習成果発表会についてホームページに掲載し、実践研究の成果を普及</p>			
	【Check】施策の課題			【Action】今後の方向			
<p>● 地域産業と連携した実践的な産業教育の充実 〔分析・背景〕</p> <p>将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育や外部人材を活用した授業等を充実させる必要がある</p> <p>〔課題〕</p> <p>地元企業等との連携により、実践的な知識や技術を習得させるとともに、地域産業の振興につながる取組が必要</p>			<p>・ 大学、試験研究機関等と連携した新たな商品や技術開発等を通じた地域産業の振興に寄与する取組の充実とメディアを活用した積極的な発信</p>				
総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均
計画どおり	計画どおり	2	1	0	0	0	3.7
	定性評価	(定性評価)					
	—						

施策項目10 環境教育の推進

—●—目標値（斜体）  
■実績値 %…進捗率

指標の状況	⑩学校目標など全体計画を作成して環境教育に取り組んでいる学校（％）		H29目標 100%		参考指標	(h)ジュニアリーダーの環境をテーマとしたプログラムの参加者数（人）		
		<p>＜小学校＞ 109.5%</p>	<p>＜中学校＞ 110.2%</p>	<p>＜参加者＞</p>				
施策の推進状況	【Plan】平成28年度の主な施策				【Do】主な実績			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境問題への理解の促進</li> <li>■環境に配慮して行動する意欲や態度の育成</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践発表や体験学習を行う「環境学習フェア」の開催（参加23校）</li> <li>・環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（GLOBE）推進事業の指定（高1校）</li> <li>・青少年教育施設における参加・体験型の環境学習プログラムの提供（6施設、79事業、参加者4,464人）</li> </ul>			
	【Check】施策の課題				【Action】今後の方向			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境教育の充実〔分析・背景〕</li> <li>・各学校において、学校目標や学年目標、教科等との関連付けを明確にした環境教育の実践が必要である</li> <li>・全体計画を作成し、環境教育に取り組んでいる学校の割合が低迷している（目標指標⑩）</li> </ul> <p>〔課題〕 引き続き、環境教育の充実に向けた指導の改善を図ることが必要</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全体を通じて環境教育に取り組むよう、指導主事による学校訪問等で指導</li> <li>・「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（GLOBE）推進事業」等の国の研究指定校事業において、研究成果を発表したりWebページに公開するなどして地域へ普及</li> <li>・SSH校等と連携し、環境学習についての発表を行うなど、交流の場を設定</li> </ul>			
総合評価	定量評価	100%以上（4点）	90~100%（3点）	80~90%（2点）	80%未満（1点）	その他	平均	
計画どおり	計画どおり	2	0	0	0	0	4.0	
	定性評価	（定性評価）						
	—							

施策項目 1.1 高等教育の充実

—…目標値（斜体）  
■…実績値

%…進捗率

指標の状況	②道内大学における共同研究の件数 <span style="float: right;">H29目標 1,135件</span>							
	<道内大学> 96.2% 							
施策の推進状況	<b>【Plan】平成28年度の主な施策</b>		<b>【Do】主な実績</b>					
	■高等教育機関と地域との連携の促進		・産学官の共同研究の促進（目標指標②） ・地域における新設大学整備支援（公立はこだて未来大学、名寄市立大学）					
	■時代の要請に応じた専門教育の充実		・専修学校等の経営の健全化、修学上の経済的負担の軽減のための助成の実施（私立専修学校（看護師養成を除く）99校、私立各種学校2校）					
	<b>【Check】施策の課題</b>		<b>【Action】今後の方向</b>					
	●私立学校・保護者への支援 【分析・背景】 少子化の進行に伴い、私立学校を取り巻く経営環境は厳しさを増している 【課題】 教育条件の維持向上、生徒等の修学上の経済的負担の軽減、経営の健全化が必要		・引き続き地域における新設大学整備を支援 ・学校経営の健全化、修学上の経済的負担の軽減を図り、実践的職業教育の振興に資するよう、限られた財源の効率的、効果的配分に留意しながら、引き続き私立専修学校等への管理運営に対し助成					
総合評価	定量評価	100%以上 (4点)	90~100% (3点)	80~90% (2点)	80%未満 (1点)	その他	平均	
概ね計画どおり	概ね計画どおり	0	1	0	0	0	3.0	
	定性評価	(定性評価)						
	—							